

『ラヴェンナ』における神と神々の行方

上 條 真 一

(元東京工芸大学女子短期大学部教授)

O. ワイルドはオックスフォード大学を卒業する年の1878年6月26日、ニューディゲート賞を勝ち得た課題詩『ラヴェンナ』をシェルドン講堂で朗読し、喝采を浴びた。ワイルドはダブリンのトリニティー・カレッジのマハフィー教授とイタリア旅行(1875年)をした。再度のイタリア旅行(1877年)ではラヴェンナに立寄り、ギリシアへ旅行し、帰路、ローマで教皇ピウス9世の謁見を賜った。これらの旅によって、ワイルドはローマ・カトリシズムとビザンティン文化との接点にあるラヴェンナへの诗情が醸成された。この旅の途中のワイルド手紙には「ラヴェンナの古いキリスト教会堂と4世紀の壮麗なモザイクに描かれた聖母子像の崇拜されている」ことの驚きが記されている。これは、ヘレニズム文化の中にキリスト教を受容したビザンティン文化の豊かさへのワイルドの羨望(せんぼう)である。

『ラヴェンナ』は7節、332行、2行ずつの韻を踏み、エンド・ストップの歯切れのよいリズムの叙事詩である。城外の春をよそにして、城内は「時の大神」の憩う静寂な墳墓である。かつて、ローマ帝国とビザンティン帝国にまたがって君臨した「二重の帝国の女王」のラヴェンナはクラッセ港の埋没と共に凋落した。ワイルドはラヴェンナのかつての栄華と忘却の歴史を次の結句によってよみがえらせた。「さらばよ、さらばよ、あの遠く銀に輝くランプ、月光は、／わが夜半をも煌々とした真昼にかえし、／汝の群がる塔々を鮮やかに照し出した、／しっかりと護りつつ／ダンテ眠り、バイロン愛し住みしこころラヴェンナを。」

『ラヴェンナ』の第5節で「優しいギリシアの夢」は「暗いゲッセマネのあらゆる思想を溺れさせてしまった」と歌うワイルドはキリストの逮捕されたゲッセマネの園の思想に背を向けた。ヘレナイズしたワイルドが異教徒としての最初の作品が『ラヴェンナ』であった。

ワイルドのキリストへの反逆はペイターの予見した「芸術のための芸術」(Art for Art's Sake)の教義に頼らざるを得ない。さらに、H・A・ジャイルズによる英訳『莊子——神秘主義者、道学者、そして社会改革者』(1889)によって、儒教への反逆的批評を支える「無なる道」の思想に啓発されてワイルドは「中国の賢者」(“A Chinese Sage,”

Speaker, February 8, 1890) という、この書評を発表し、神の世界への批評を展開した。

やがて、1883年パリで起草されて以来、ようやく1894年に出版された『スフィンクス』(The Sphinx) はフローベールの『聖アントワーンの誘惑』(1874) へのワイルドの応答である」(Rodney Shewan, *Oscar Wilde: Art and Egotism*, London, 1977, p. 89.) と、ロドニー・シューワンは述べている。

今や、『スフィンクス』はピラミッドを魔窟となして、エジプトの神々たちとの淫蕩の限りを尽くす怪猫である。突如、詩人はスフィンクスのもつ異教的な妖艶な美との一体性を断絶し、「不貞のスフィンクスよ!」「汝、先に行け」と命じ、「^{いとろ}三途の川」へ追いやるのである。この詩の結末は次のカプレットである。「我が十字架の像の青ざめた重荷は、苦悩に悩み、疲れた目で世界を見つめる、そして、死にゆく魂のすべてに涙を流し、空しき魂のすべてに涙を流す」。ようやく、詩人のサディズムは十字架に象徴されるカトリシズムへ変身を図ることによって、情欲を冷やそうとする。しかし、この大きな一本石の像——キリストはなんと苦悩し、青ざめていることであろう。スフィンクスの官能美を捨て去る苦悩をワイルドは「キリストの流す涙」に収斂させた。ワイルドの掲げるキリストはカトリシズムのキリストではない。ワイルドの「我が十字架像」とは己れの詩の美をより昇華させるための「美の神」である。詩人は涙するキリスト——「美の神」——によって、『スフィンクス』の異教の美を肯定したのである。

ここには、「キリストの信条は規定された教義ではなく、どのようにでも解釈し得る比喩である」(Ernest Renan, *The Life of Jesus*. Translation of *Vie de Jésus*, 1863. New York, 1991, p. 221.) と言うルナンンの啓示がある。

ヘレナイズした、青春のワイルドが歌った『ラヴェンナ』は、ビザンティン文化のモザイク芸術のような彫琢の美に輝いている。やがて、ワイルドは、「神」も「神々」も『スフィンクス』に献身する「芸術のための芸術の王国」を創り出した。ここに、ワイルドは、美の女神の『スフィンクス』という不滅の名詩を残したのである。

